

# きれいに顔をあらおう 解説編

今回のテーマは「洗顔」です。「洗顔」に必要な3つのポイントをあそびの中に取り入れました。

## 1. 「洗顔」の目的は？

「洗顔」の目的は次の3点が考えられます。

### ① 顔の汚れを取る

ゴールドは前夜のお絵かきで、顔が汚れていました。朝になって、園・学校へ行く前に、顔の汚れを取ることが一番の目標です。口やほっぺ、目の周りも汚れていることが多いのでしっかり洗います。

### ② 意識の覚醒レベルをあげる

朝は寝起きでボンヤリしていることが多くあります。一日の生活を始める前には、水で顔を洗い、意識を目覚めさせることが大切です。覚醒レベルがあがることで、学習できる状態に入ります。

### ③ 感覚過敏の減少

支援の必要な子どもには、触覚過敏の子どもが見受けられます。特に、身体の前面は敏感で、顔や胸、腹部を触られることを嫌がる傾向があります。また、「洗顔」の場合は目をつむるため、より敏感になりやすいといえます。大好きな保護者や先生と一緒に「洗顔」することで、少しずつ過敏さを減少させていきます。

## 2. 「洗顔」の活動の中で「難しいポイント」は？

番組委員の先生たちからあげられた「洗顔の難しいポイント」は次の6点でした。

- ① 水をすくうために、水を手に貯めることが難しい。
- ② 水が顔につくのを嫌がる。
- ③ 洗うとき、目をつむることが難しい。
- ④ 石けんが目にしみる（水で洗えるようになってからの課題）。
- ⑤ 息が止められない（息を止めなくても、口を閉じられると良い）。
- ⑥ 立った姿勢で、上体の前傾状態を保持しにくい（座って顔を洗うなどする）。

これらの「難しいポイント」の中から、まず、「手で水をすくう」動作をとりあげました。掌を上に向け、両手の小指側をつけて水をすくいます。次に「目をつむる」動きを含めることにしました。「洗顔」では、瞬間的に目をつむるのでなく、3～4秒は目をつむっていなければなりません。最後に、顔の部分の位置の理解です。「洗顔」するとき、子どもたちは目をつむるため、自分の顔の部分の位置を鏡で確認できません。顔の部分の位置を頭の中に覚えておいて、洗うときには「目、鼻、口、頬、額、あご」の位置をイメージして、洗う必要があるのです。

以上のように、今回のあそびでは、①水をすくう動作、③目をつむる、③顔の部分をさわる動作、を取りあげて遊び化することにしました。



### 3. 「手で顔の部分さわるあそび」

最初のアソビは、「おでこ、ほっぺ、口、鼻、目、あご」などと、顔の部分の名前を1つ言います。子どもたちはその場所を手でさわるという遊びです。顔の部分の位置をイメージできて、正しくさわることがねらいです。このときは目をあけて、手の動きを見ることが出来る状態で行っています。「きれいに顔を洗おう」のアソビ全体の準備運動的な位置づけとしました。顔の部分の名前をことばで理解することが難しい子どもには、さわるところを見せてから、模倣させるようにします。

さわるところは、「おでこ、ほっぺ、口、鼻、目、あご」などにしました。口、目・鼻は普段からさわることが多いと思われるので、「おでこ、ほっぺ、あご」などをさわるようにした方が面白いかもしれません。

次のゲームは、顔の部分の名前を2つに増やして言います。子どもたちは、目をつむった状態で、その場所を同時にさわるといいます。さわらなくてはいけない顔の部分が2カ所になる上に、目をつむった状態で行うため、より正確な顔の部分のイメージが求められます。

番組では時間の関係で放送できなかったのですが、一つ目のアソビのあと、目をつむって、指示された顔の部分を1つだけ手でさわるといいます。これは、一つ目のアソビから「目をつむる」という課題が増え、その分、難しくなります。アソビがよりスモールステップ化され、多くの子どもたちが参加しやすくなると思います。

### 4. 「両手で物をすくうあそび」

最初のアソビは、小さく切った(3cm角程度)たくさんのスポンジを両手ですくい、横に置いてあるボウルに移すゲームです。両手の小指側をつけて、できるだけこぼさないように運ぶことがねらいです。

すくうものは角のあるスポンジにしました。丸くなくて大きさもあり、すくいやすいと思われる。スポンジですくってみた後は、豆やおはじき、ビー玉などでやってみましょう。

2つ目のアソビは、ボウルの水をすくう活動です。水をこぼさないようにすくって、横に置いてあるメスシリンダーに入れます。メスシリンダーがない場合は、2リットルのペットボトルの上部を切り取ったもので代用しましょう。このゲームもこぼさないようにすくうことがねらいです。水の場合、すくうこと自体が難しいので、いきなりメスシリンダーに移すのではなく、すくったまま、こぼさないように5秒くらい保持する、というゲームをしてもよいかもしれません。両手の指をしっかりとつけていないと、水はこぼれてしまいます。うまくすくえているかどうか、結果が分かりやすい活動だといえます。水がこぼれてしまうときは、両手の指をしっかりとつける所を見せ、同じようにさせて支援します。

### 5. 「アソビの発展」

両手で物をすくうアソビは、「早くうつせた人の勝ち」というタイム競争にするのも楽しそうです。ただ、早くうつそうというルールにすると、子どもたちは「こぼさない」で運ぶことを忘れがちになります。「多少こぼしてもいいから早くうつす」となりやすいのです。「早く」ではなく、「こぼさずにうつす」とすると、目標に合ったアソビになると思います。

アソビの発展として、次のようなリレー形式の活動が考えられます。3人でチームになり、2～3m離れたところにあるメスシリンダー(ペットボトル)に水をすくって入れます。1人3回ずつ運び、3人でたくさんうつせたチームが勝ち、というゲームです。制限時間はなく、できるだけこぼさずに水を運ぶことをねらっています。

